

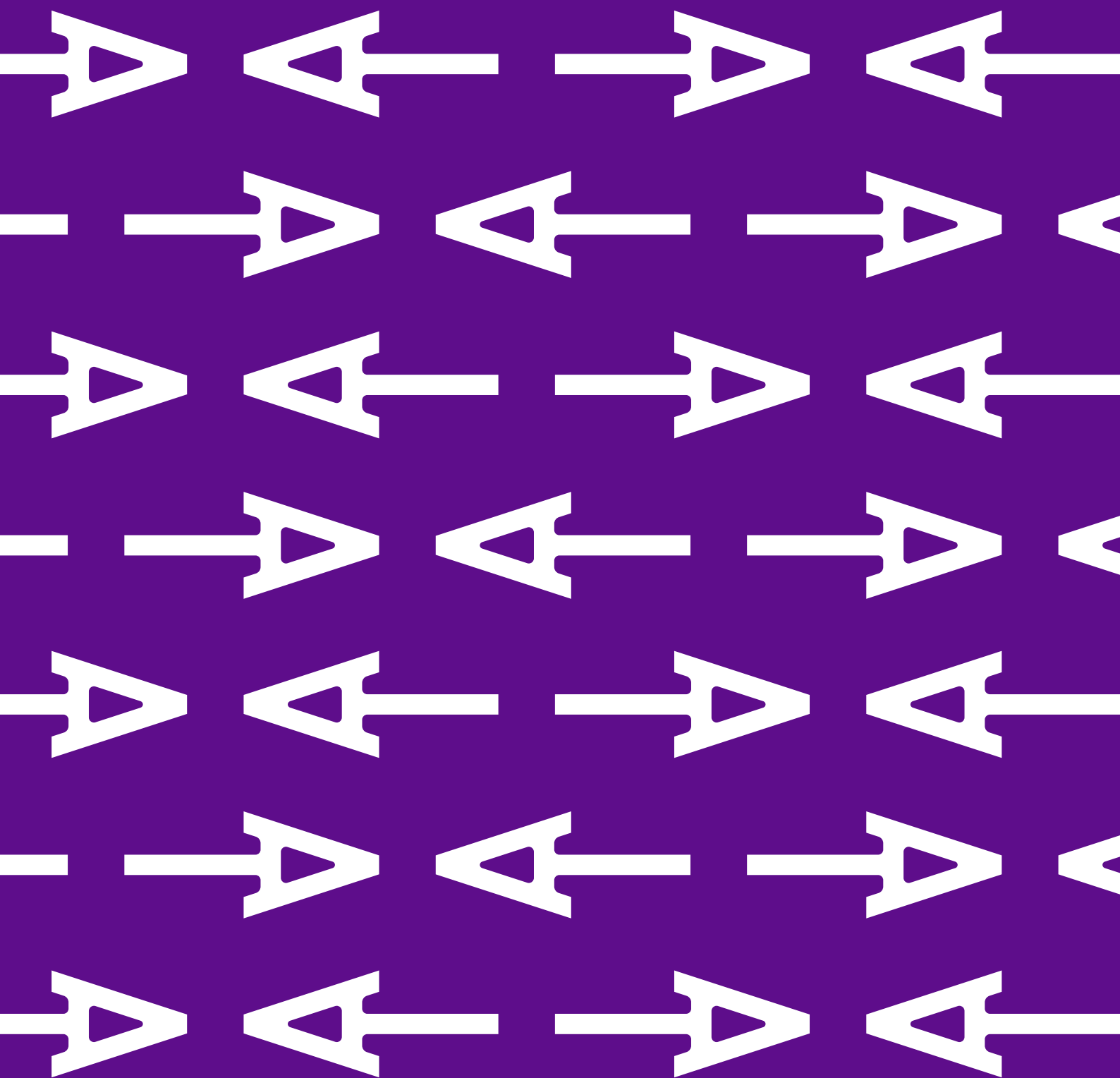
あいちトリエンナーレ2019

AICHI TRIENNALE 2019: Taming Y/Our Passion

情の時代

プレス資料 | 開催概要

2019年7月31日



あいちトリエンナーレとは

あいちトリエンナーレは、2010年から3年ごとに開催されている国内最大規模の国際芸術祭です。

4回目となる2019年は、国内外から90組以上のアーティストを迎えます。

国際現代美術展のほか、映像プログラム、パフォーマンスアート、音楽プログラムなど、様々な表現を横断する、最先端の芸術作品を紹介します。

開催目的

- ・新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献します。
- ・現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図ります。
- ・文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図ります。

名称

あいちトリエンナーレ2019 / Aichi Triennale 2019

テーマ

情の時代 Taming Y/Our Passion

芸術監督

津田 大介 (ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)

1973年生まれ。東京都出身。早稲田大学文学学術院教授。メディアとジャーナリズム、著作権、コンテンツビジネス、表現の自由などを専門に執筆活動を行う。近年は地域課題の解決や社会起業、テクノロジーが社会をどのように変えるかをテーマに取材を続ける。



会期

2019年8月1日(木)～10月14日(月・祝) [75日間]

主な会場

愛知芸術文化センター

名古屋市美術館

名古屋市内のまちなか(しけみち えんどうじ) (四間道・円頓寺)

豊田市 (豊田市美術館及び豊田市駅周辺)

主催

あいちトリエンナーレ実行委員会

目次

開催目的	P2	地図	P11
開催概要	P3	参加アーティスト一覧	P12
企画概要	P4	チケット情報	P15
テーマ・コンセプト	P6	連携事業	P16
企画体制	P8	後援/助成/協賛/協力/ 会場提供/実行委員会	P18
主な会場	P10		

現代美術

Contemporary Art

国際現代美術展

NEW ■国内外の66組のアーティスト・団体の新作を含む作品を展示し、最先端の現代美術を紹介します。

■愛知県美術館を含む愛知芸術文化センターを中心に、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか(四間道・円頓寺)、豊田市(豊田市美術館及び豊田市駅周辺)での作品展示など、広域に展開します。

映像プログラム

NEW

■国内外のアーティスト・団体14組による映画作品15本(日本初上映作品3本、新作1本を含む)を、9月15日~9月29日にかけて、愛知芸術文化センター アートスペースAにて上映します。上映期間中、映画監督や作品に関連するゲストを招き、トークイベントを実施し、作品の魅力などを伝えます。

■アートスペースAでの上映期間に先行して、8月9日にミッドランドスクエア シネマを会場として特別オールナイト上映を開催します。特別に選定された映画作品のほか、日本初上映作品2本を先行して上映します。

舞台芸術

Stage Performance

パフォーミングアーツ

NEW

■国内外の先鋭的な演劇などの作品を、愛知県芸術劇場を中心に名古屋市内及び豊田市内で14演目上演します。日本初演の海外作品、国内新作が揃うほか、「エクステンション企画」と題し、国際現代美術展の参加アーティストによるレクチャー形式のパフォーマンスや参加型プロジェクトを実施します。

■複数演目を集中的に上演するパフォーミングアーツ・フォーカス期間(8月2日~4日、9月5日~8日、10月11日~14日)を設定し、国内外から集まる演者と観客、美術と演劇、劇場と都市空間を横断するプログラムを複合的に展開します。

音楽プログラム

NEW

■ロックやポップスなどのポピュラーミュージックを新たなプログラムとして加え、6企画のライブパフォーマンスなどを通し、その魅力を伝えます。

■愛知芸術文化センターでは、愛知県芸術劇場大ホールで2組の公演を開催するほか、複合的なフェスイベント『あいちトリエンナーレ2019 MUSIC & ARTS FESTIVAL』を9月14日に開催します。

■四間道・円頓寺では、日替わりで様々なアーティストが演奏する『円頓寺 デイリーライブ』を行い、10月12日にはフィナーレに向けたイベント『なごの音楽祭』などを展開します。

来場者の相互的な学びの場を目指した活動を展開します。

キーワード | 受けとめる・深める・形にする・オーナーシップ

アート・プレイグラウンド

NEW

みんなで創造性を発揮する場所が「アート・プレイグラウンド」です。テーマが異なる5拠点の「アート・プレイグラウンド」で来場者のクリエイティブな活動をサポートします。

あそぶ PLAY

アーティスト派遣事業の一環として遠藤幹子・日比野克彦とともに「ダンボール研究」を進めてきた子どもたちと一緒に、ダンボールを使った公園をつくります。会期中、来場者はただ遊ぶだけではなく、自らもアイデアを出したり手を動かしたりして、どんどん公園の様子を変えていきます。

会場 | 愛知芸術文化センター 8階J室

はなす TALK

アートについて「誰かと話したい!」ができる場所。思考をすること自体を楽しみ、自分の考えと誰かの考えが会うことで、さらに考えや思いが広がっていくことのおもしろさを体験します。「トリエンナーレスクール」(2017年度より実施)は、カタチを変えて実施します。

会場 | 愛知芸術文化センター 8階ロビー

つくる CREATE

つくることのプロセスを体験する場所。昔ながらの道具から新しい技術まで、様々なものを使って、何かをつくりだすことの楽しさ、その過程を知る機会を創出します。

会場 | 名古屋市美術館 地下1階 常設展示室3

もてなす INTERACT

「四間道・円頓寺名物開発研究室」を開設。四間道・円頓寺の商店街の人々、地域の人々、来場者とまちの“名物”を考え、実際に商品化を目指していきます。

会場 | 四間道・円頓寺 なごのステーション

しらせる OUTREACH

発信することを体験する場所。ラジオやZINE、TシャツやSNSなど、様々な媒体を使って、自分の考えをどのように伝えていくかを考えて実現していきます。

会場 | 豊田市美術館 ワークショップルーム

ボランティア活動

NEW

■あいちトリエンナーレは、1,200名を超えるボランティア登録者によって支えられています。対話型アート鑑賞を軸とした新たな研修内容によって、アートの専門知識が無くても楽しめる場を整えます。更に専門研修を経たガイドボランティアによる鑑賞ツアーも実施します。

情の時代 Taming Y/Our Passion

「政治は可能性の芸術である」——ドイツを代表する政治家・ビスマルクの言葉だ。ゴルバチョフや丸山眞男など、後世の政治家や政治学者が積極的に引用し、政治というものの本質を一言で表現したものとして定着している。ビスマルクはその生涯において同様の発言を繰り返しており、「政治は科学(science)ではなく、術(art)である」という国会でのスピーチも記録に残っている。

政治評論家の森田実は、この言葉を「政治は科学的合理性だけでは理解できるものではなく、いわば芸術の領域に含まれるような直観を備えることが大切である」「政治は理屈のみで考えるものではなく、芸術とも根を同じくするもの」と解説する。

アート(art)の語源は、ラテン語のアルス(ars)にあると言われている。アルスはギリシア語のテクネーに相当し、したがって「アート」という言葉も初期近代までは「古典に基づいた教養や作法を駆使する技芸(ars)」一般を指していた。

ビスマルクの「術」もこれに近い意味であろう。「アート」という単語がすなわち「芸術」や「美術」という意味に変容していくのは19世紀以降の話である。ビスマルクの言葉に象徴されるように、政治は「民衆の納得と同意を獲得する技芸」と定義されるが、それは語源的に「アート」が元々「政治を対象に含む一群の学芸や技芸」として理解されていたところが大きい。

■
言葉は、時代の変遷とともに変容する。

現在、世界は共通の悩みを抱えている。テロの頻発、国内労働者の雇用削減、治安や生活苦への不安。欧米では難民や移民への忌避感がかつてないほどに高まり、2016年にはイギリスがEUからの離

脱を決定。アメリカでは自国第一政策を前面に掲げるトランプ大統領が選出され、ここ日本でも近年は排外主義を隠さない言説の勢いが増している。源泉にあるのは不安だ。先行きがわからないという不安。安全が脅かされ、危険に晒されるのではないのかという不安。

近代以降、どこまでも開かれ、つながっていくことへの渴望がグローバリズムを発展させた。しかしその一方で、ひたすらに閉じて安心したいという反動が今日のナショナリズムの高まりを支えている。両者の衝突が分断を決定的なものにし、格差は拡大し続ける。

情報が多過ぎることも災いしている。われわれの「感情」は、日々さまざまな手段で入手する情報によって揺り動かされる。視聴率や部数を稼ぐために不安を煽り、正義感を焚きつけるマスメディアから、対立相手を攻撃するためであれば誤情報を拡散することも厭わないソーシャルメディアまで、多くの情報が人々を動揺させることを目的として発信されている。

複雑な社会課題を熟議によって合意形成していくのではなく、一つのわかりやすい解答を提示する政治家に支持が集まる状況も同じである。近年、選挙に勝つことだけを目的にしたデータ至上主義の政治が台頭したことで、かつての人文主義的な教養や技芸と深く結びついた統治技術(ars)はすっかり廃れてしまった。

厄介なことに、「情報」によって一度「評価」された感情は、変えることが難しい。イタリアのIMTルッカ高等研究所の計算社会学者ウォルター・クアトロチョッキらの調査結果によると、虚偽の情報を基に作られているウェブサイトの読者が、その虚偽を暴く情報に接する——「事実」を突きつけられると、驚くべきことにそのウェブサイトを読み続ける確率が

3割も高まるという。イエール大学のデイビッド・ランドらも同様の調査結果を発表している。

「事実(fact)」よりも対象を信じたい感情の方が優先されるのは、事実を積み重ねていっても決して「真実(truth)」にはならないからだ。それらは本来、切り分けて考えなければいけない。全ての問題を対立軸で捉えるのも誤りである。この世に存在するほとんどの事柄はグレーで、シロとクロにはっきり切り分けることができるのは全体から見てほんのわずかだ。



『漢字源 改訂第五版』によると、「情」という漢字には「感覚によっておこる心の動き(→感情、情動)」、「本当のこと・本当の姿(→実情、情報)」、「人情・思いやり(→なさけ)」という、主に3種類の意味がある。2015年、内戦が続くシリアから大量に押し寄せる難民申請者を「感情」で拒否する動きが大きくなっていった欧州各国の世論を変えたのは、3歳のシリア難民の少年が溺死した姿を捉えた1枚の写真だった。この写真をきっかけに、ドイツとフランスは連名で難民受け入れの新たな仕組みをEUに提案し、続いてイギリスもそれまでの政策を転換して難民の受け入れを表明した。欧州を埋め尽くしていた「情報」によって作られた不安を塗り替えたのは、人間がもつ「情」の中でもっとも早く表出するプリミティブな「連帯」や「他者への想像力」ではなかったか。

世界を対立軸で解釈することはたやすい。「わからない」ことは人を不安にさせる。理解できないことに人は耐えることができない。苦難が忍耐を、忍耐が練達を、練達が希望をもたらすことを知りつつ、その手段を取ることをハナから諦め、本来はグレーであるものをシロ・クロはっきり決めつけて処理した方が合理的だと考える人々が増えた。

イアン・ハッキングは著書『偶然を飼いならす:The Taming of Chance』で、19世紀以降の近代社会において、統計学が誕生し、人間を集団——動物の群れのように効率よく管理する仕組みとともに発展していく様を、フーコーの「生権力」の概念を援用しながら巧みに描いた。21世紀の社会はまさに延長線上にある。われわれは、権力によって、あるいはメディアによって、動物のように管理されている。

しかし、それでも人間は動物ではない。人間は、たとえ守りたい伝統や理念が異なっても、合理的な選択ではなくても、困難に直面している他者に対し、とっさに手を差し伸べ、連帯することができる生き物である。いま人類が直面している問題の原因は「情」にあるが、それを打ち破ることができるのもまた「情」なのだ。

われわれは、情によって情を飼いならす(tameする)技(ars)を身につけなければならない。それこそが本来の「アート」ではなかったか。アートはこの世界に存在するありとあらゆるものを取り上げることができる。数が大きいものが勝つ合理的意思決定の世界からわれわれを解放し、グレーでモザイク模様の社会を、シロとクロに単純化する思考を嫌う。

近代以降、日本のものづくり産業(ars)をリードし続けた愛知という地域は、都市であり地方であり、「普通の日本人」だと自認する人々が暮らす非凡な社会である。ナショナリズムとグローバリズム、エリート主義と反知性主義、普遍主義と相対主義、理想主義と現実主義、都市と地方、高齢者と若者——われわれが見失ったアート本来の領域を取り戻す舞台は整った。

あいちトリエンナーレ2019芸術監督
津田 大介

芸術監督



津田 大介

TSUDA Daisuke

1973年生まれ。東京都出身。早稲田大学文学学術院教授。メディアとジャーナリズム、著作権、コンテンツビジネス、表現の自由などを専門に執筆活動を行う。近年は地域課題の解決や社会起業、テクノロジーが社会をどのように変えるかをテーマに取材を続ける。主著に、『情報戦争を生き抜く』（朝日新書）、『ウェブで政治を動かす!』（朝日新書）、『Twitter社会論』（洋泉社新書y）、『動員の革命』（中公新書ラクレ）、『情報の呼吸法』（朝日出版社）、『「ポスト真実」の時代』（日比嘉高氏との共著・祥伝社）など。世界経済フォーラム（ダボス会議）「ヤング・グローバル・リーダーズ2013」選出。第17回メディア芸術祭 エンターテインメント部門 新人賞受賞。

企画アドバイザー



東 浩紀

AZUMA Hiroki

1971年東京都生まれ。作家／批評家。株式会社ゲンロン前代表。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。1993年に批評家としてデビュー。専門は現代思想、表象文化論、情報社会論。著書に『存在論的、郵便的』（新潮社、サントリー学芸賞）、『動物化するポストモダン』（講談社）、『クオンタム・ファミリーズ』（新潮社、三島由紀夫賞）、『一般意志2.0』（講談社）、『ゲンロン0 観光客の哲学』（ゲンロン、第71回毎日出版文化賞）、『ゆるく考える』（河出書房新社）、『新記号論』（石田英敬との共著、ゲンロン）など多数。

チーフ・キュレーター
学芸統括



飯田 志保子

IIDA Shihoko

1975年東京都生まれ。キュレーター。名古屋を拠点に活動。1998年開館準備期から11年間東京オペラシティアートギャラリーに勤務。主な企画は『ヴォルフガング・ティルマンスー-Freischwimmer』（2004年）、『トレス・エレメンツ―日豪の写真メディアにおける精神と記憶』（東京オペラシティアートギャラリー、2008年／パフォーマンス・スペース、シドニー、2009年）など。2009年から2011年までプリズペンのクイーンズランド州立美術館／現代美術館内の研究機関ACAPAに客員キュレーターとして在籍後、韓国国立現代美術館2011年インターナショナル・フェローシップ・リサーチャーとしてソウルに滞在。帰国後『第15回アジア・アート・ビエンナーレ・バンガラデシュ2012』（日本公式参加）、『あいちトリエンナーレ2013』、『札幌国際芸術祭2014』など国際展のキュレーターを歴任。2014年10月から2018年3月まで東京藝術大学准教授。アジア地域の現代美術、共同企画、美術館やビエンナーレをはじめとする芸術文化制度と社会の関係に関心をもち、ソウル、オーストラリア複数都市、ニューデリー、ジャカルタ各地域で共同企画展を実践している。

キュレーター
国際現代美術展



能勢 陽子

NOSE Yoko

岡山県生まれ。愛知県を中心に活動。豊田市美術館学芸員。1997年より現職。これまで企画した主な展覧会に、『テーマ展 中原浩大』（豊田市美術館、2001年）、『ガーデンズ』（豊田市美術館、2006年）、『Blooming: 日本―ブラジル きみのいるところ』（豊田市美術館、2008年）、『Twist and Shout Contemporary Art from Japan』（バンコク・アート&カルチャーセンター、2009年、国際交流基金主催）、『石上純也―建築の新しい大きさ』（豊田市美術館、2010年）、『反重力』（豊田市美術館、2013年）、『杉戸洋一こぼれとあまつぶ』（豊田市美術館、2016年）、『ビルディング・ロマンス』（豊田市美術館、2018年）など。美術手帖、WEBマガジンartscape等にも、多数執筆。

キュレーター
国際現代美術展



ペドロ・レイエス

Pedro REYES

1972年メキシコシティ生まれ。同地在住。建築を学び、彫刻、構造物、プロジェクトなどを通じ、演劇、心理学、アクティビズムの要素を取り入れた様々な形態の作品を発表。主な作品は、回収した銃をシャベルに変え植樹と展示を行う『Palas por Pistolas』（バンクーバー美術館、2008年）、銃器を楽器に変えた『Disarm』（リットン・ギャラリー、2013年）のほか、『Sanatorium』（グッゲンハイム美術館、2011年）、『pUN(人々の国際連合)』（クイーンズ美術館、2013年／金沢21世紀美術館、2015年）など。2015年米國務省アーティスト・メダル、フォード財団特別研究員、2016年秋にMIT（マサチューセッツ工科大学）の客員研究員となり、現在は同大学アート・科学・技術センターのダーシャ・ジューコフ名誉客員アーティストを務める。キュレーターとしても活動、これまでに数多くの展覧会を手がけている。

キュレーター
国際現代美術展



鷺田 めるろ

WASHIDA Meruro

1973年京都府生まれ。金沢市在住。2018年3月まで金沢21世紀美術館キュレーター。1998年東京大学大学院美術史学専門分野修士課程修了。専門は美術史学（現代美術）、博物館学。地域や参加をテーマに現代美術・建築の展覧会・プロジェクトを手がける。主な企画に『金沢アートプラットフォーム2008』、『妹島和世＋西沢立衛／SANAA』（2005年）、『アトリエ・ワン いきいきプロジェクトin金沢』（2007年）、『イエッペ・ハイン 360°』（2011年）、『島袋道浩・能登』（2013-2014年）、『坂野亮学 可視化する呼吸』（以上金沢21世紀美術館、2016年）。その他、『越後正志 抜け穴』（ギャラリー無量、2017年）なども手掛ける。2007年、非営利団体CAAK, Center for Art & Architecture, Kanazawaを共同設立し、2017年の解散までボードメンバー。第57回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展日本館キュレーター（2017年）。

キュレーター
映像プログラム



杉原 永純

SUGIHARA Eijun

1982年福井県生まれ。2019年3月まで山口情報芸術センター[YCAM]キュレーター(映画・映像表現)。2005年東京藝術大学美術学部芸術学科卒業。2007年同大学大学院映像研究科修士課程映画専攻製作領域(現プロデュース領域)修了。2011年東京・渋谷にオープンしたミニシアター「オーデイトリウム渋谷」(2014年閉館)プログラム・ディレクターとして、インディペンデント映画の潮流を積極的に紹介し、並行して古今東西の特集上映プログラムを組む。2014年より山口情報芸術センター[YCAM]のキュレーターに就任。映画上映プログラム「YCAMシネマ」や、ライブ音響で映画を鑑賞する「YCAM爆音映画祭」などのイベント上映のプログラム選定を担当している。2015年よりYCAMにて映画作品をプロデュースするプロジェクト「YCAM Film Factory」を立ち上げ、映画作品およびインスタレーション作品のキュレーションを行っている。

(撮影:Gottingham 写真提供:山口情報芸術センター[YCAM])

キュレーター
パフォーマンスアート



相馬 千秋

SOMA Chiaki

1975年岩手県生まれ。東京都在住。NPO法人芸術公社代表理事/アートプロデューサー。早稲田大学第一文学部卒業。リユミエール・リヨン第二大学文化人類学・社会学大学院DESS課程修了。横浜の舞台芸術創造拠点「急な坂スタジオ」初代ディレクター(2006-2010年)、国際舞台芸術祭「フェスティバル/トーキョー」初代プログラム・ディレクター(F/T09春-F/T13)、文化庁文化審議会文化政策部会委員(2012-2015年)などを経て、2014年NPO法人芸術公社を設立、代表理事に就任。2015年フランス共和国芸術文化勲章シュヴァリエ受章。2016年より立教大学現代心理学部映像身体学科特任准教授。2017年より「シアター・ commons」実行委員長兼ディレクターを務めるなど、演劇、美術、社会関与型アートなどを横断するプロジェクトのプロデュースやキュレーションを国内外で多数手掛けている。

キュレーター
音楽プログラム



大山 卓也

OYAMA Takuya

1971年北海道生まれ。北海道大学文学部卒業。株式会社ナターシャ創業者。株式会社メディアワークス(現KADOKAWA)にて7年間にわたり雑誌やウェブメディアの編集を手がけ、2006年に代表取締役として音楽ニュースサイト「ナタリー」などを運営する株式会社ナターシャを設立。2007年2月から自社運営のニュースサイト「ナタリー」をスタートさせる。現在、ナターシャ相談役を務める。

キュレーター
ラーニング



会田 大也

AIDA Daiya

1976年東京都生まれ。情報科学芸術大学院大学[IAMAS]修了後、2003年から2014年までメディアアートをテーマとした山口情報芸術センター[YCAM]に教育普及担当として勤務。鑑賞プログラムや市民参加プログラム、メディアワークショップや公園型展示作品の企画運営を行う。これらの事業でキッズデザイン賞大賞やグッドデザイン賞、メディア芸術祭審査委員会推薦作品など受賞。2013年に、国際交流基金による日・ASEAN友好協力40周年記念日本と東南アジアを巡回するメディアアート展「MEDIA/ART KITCHEN」に、7カ国13名のキュレーターチームの一員として協働した。2014年より5年間、東京大学リディング大学院プログラムGCL-GDWS特任助教として、ワークショップデザインを教える。

コンサルタント



Hou・ハンルウ

HOU Hanru

1963年中国広州生まれ。パリとサンフランシスコを拠点として美術批評と展覧会企画を中心に活動し、近年はローマ在住。イタリア国立21世紀美術館アーティストック・ディレクター、ならびにソロモン・R・グッゲンハイム美術館ロバート・H・N・ホー・ファミリー財団中国美術イニシアティブ・コンサルティング・キュレーター。中央美術学院(北京)卒業(1985年学士、1988年修士)。代表的な展覧会企画には、「移動する都市」(1997-2000年)、上海ビエンナーレ(2000年)、光州ビエンナーレ(2002年)、三度のヴェネツィア・ビエンナーレ[フランス館(1999年)、「Z.O.U. - Zone Of Urgency」(2003年)、中国館(2007年)]、イスタンブール・ビエンナーレ(2007年)、リヨン・ビエンナーレ(2009年)など多数。近年では「香港-深圳 都市・建築ビエンナーレ」(2017年)、「Art and China after 1989, Theater of the World」(2017年)を企画。また、世界各地の美術館や教育機関でのレクチャーや助言、アドバイザーを務めるなど、幅広く活躍。(Photo by Musacchio Ianniello Courtesy of Fondazione MAXXI)

公式デザイナー



前田 豊

MAEDA Yutaka

1972年大阪府生まれ。氏デザイン株式会社代表取締役。京都市芸繊維大学卒業後、廣村デザイン事務所などを経て、自身の事務所を設立。グラフィックデザインを軸に、VI(ビジュアル・アイデンティティ)やエディトリアル、パッケージデザインや空間デザインなど幅広い分野で活躍。主な実績に「黄金町バザール」(2013-2017年)、「宇宙と芸術展」(森美術館、2016-2017年)、「西洋更紗トワール・ド・ジュエ」(Bunkamura、2016年)等。日本サインデザイン大賞・経済産業大臣賞受賞(2012年)。

愛知芸術文化センター

Aichi Arts Center

愛知県美術館と、大ホール、コンサートホール、小ホールを備えた愛知県芸術劇場などからなる日本屈指の総合芸術文化施設。1992年開館。



名古屋市美術館

Nagoya City Art Museum

都心の緑豊かな白川公園に建つ美術館。設計は黒川紀章。モディリアーニの「おさげ髪の少女」をはじめ約6,300点の作品を収蔵。これらを展示する「常設展」と随時開催する「特別展」がある。1988年開館。



四間道・円頓寺

Shikemichi and Endoji

名古屋駅と名古屋城のほぼ中間に位置し、下町の情緒を残す町並みのある地区。「四間道町並み保存地区」の中心的な存在で江戸時代から続く伊藤家住宅(県指定文化財)をはじめ、土蔵や伝統的な建造物が現在も残る四間道周辺や、東西約500メートルにわたるアーケードの下に飲食店や日用品店が軒を連ねる「円頓寺商店街」「円頓寺本町商店街」沿いの建物などで展示。



豊田市美術館 豊田市駅周辺

Toyota Municipal
Museum of Art and
Venues in the Vicinity
of Toyotashi Station

愛知県のほぼ中央に位置する人口約42万人の中核市。ものづくりの都市として知られる一方、四季折々の自然や田園地帯が広がる緑のまちとしての顔を併せ持つ。

美術館建築で名高い谷口吉生の設計の豊田市美術館(1995年開館)、大正期の代表的な町屋建築の元料理旅館「喜楽亭」(国登録有形文化財)のほか、名鉄豊田市駅と愛知環状鉄道新豊田駅の周辺で展示。

なお、ラグビーワールドカップ2019™日本大会では、日本代表戦などの試合が豊田スタジアムで行われる。また豊田市美術館ではクリムト展が同時開催される。



国際現代美術展

アーティスト名(日本語)	アーティスト名(英語)	生年	出身地	会場	別冊掲載ページ
表現の不自由展・その後	After "Freedom of Expression?"	—	日本	芸文	4
洪松明(ソンミン・アン)&ジェイソン・メイリング	Song-Ming ANG and Jason MALING	2017 結成	シンガポール	四/円	4
青木 美紅	AOKI Miku	1996	日本	名市美	5
ワリード・ベシュティ	Walead BESHTY	1976	英国	芸文	5
キャンディス・ブレイツ	Candice BREITZ	1972	南アフリカ	芸文	5
ジェームズ・ブライドル	James BRIDLE	1980	英国	芸文	6
タニア・ブルゲラ	Tania BRUGUERA	1968	キューバ	芸文	6
文谷 有佳里	BUNYA Yukari	1985	日本	芸文	6
ミリアム・カーン	Miriam CAHN	1949	スイス	芸文	7
ピア・カミル	Pia CAMIL	1980	メキシコ	芸文	7
CIR(調査報道センター)	The Center for Investigative Reporting	1977 設立	米国	芸文	7
ヘザー・デューイ=ハグボーグ	Heather DEWEY-HAGBORG	1982	米国	芸文	8
○ dividual inc.	dividual inc.	2008 設立	日本	芸文	8・41
毒山 凡太郎	DOKUYAMA Bontaro	1984	日本	四/円	8
越後 正志	ECHIGO Masashi	1982	日本	四/円	9
アイシエ・エルクメン	Ayşe ERKMEN	1949	トルコ	四/円	9
エキソニモ	exonemo	1996 結成	日本	芸文	9
シール・フロイヤー	Ceal FLOYER	1968	英国籍	芸文・豊市美	10
○ 藤井 光	FUJII Hikaru	1976	日本	名市美	10・41
藤原 葵	FUJIWARA Aoi	1994	日本	芸文	10
レジーナ・ホセ・ガリンド	Regina José GALINDO	1974	グアテマラ	芸文	11
○ ドラ・ガルシア	Dora GARCÍA	1965	スペイン	芸文・名市美	11・41
葛宇路(グウ・ユルー)	GE Yulu	1990	中国	四/円	11
ホー・ツーニエン	HO Tzu Nyen	1976	シンガポール	豊田市駅	12
アンナ・フラチョヴァー	Anna HULAČOVÁ	1984	チェコスロバキア(現チェコ)	豊市美	12
今村 洋平	IMAMURA Yohei	1978	日本	芸文	12
今津 景	IMAZU Kei	1980	日本	名市美	13
石場 文子	ISHIBA Ayako	1991	日本	芸文	13
伊藤 ガビン	ITO Gabin	1963	日本	芸文	13
岩崎 貴宏	IWASAKI Takahiro	1975	日本	四/円	14
加藤 翼	KATO Tsubasa	1984	日本	芸文	14
○ キュンチョメ	Kyun-Chome	2011 結成	日本	四/円	14・41
梁志和(リョン・チーウォー)+黄志恆(サラ・ウォン)	LEUNG Chi Wo + Sara WONG	1992 結成	香港	四/円	15
イム・ミンク	LIM Minouk	1968	韓国	芸文	15
アマンダ・マルティネス	Amanda MARTINEZ	1988	米国	芸文	15
クラウディア・マルティネス・ガライ	Claudia MARTÍNEZ GARAY	1983	ペルー	芸文	16
榎本 佳子	MASUMOTO Keiko	1982	日本	名市美	16

アーティスト名(日本語)	アーティスト名(英語)	生年	出身地	会場	別冊掲載 ページ
モニカ・メイヤー	Mónica MAYER	1954	メキシコ	名市美	16
村山 悟郎	MURAYAMA Goro	1983	日本	芸文	17
永田 康祐	NAGATA Kosuke	1990	日本	芸文	17
レニエール・レイバ・ノボ	Reynier Leyva NOVO	1983	キューバ	豊市美	17
小田原 のどか	ODAWARA Nodoka	1985	日本	豊田市駅	18
バンクロック・スウラップ	Pangrok Sulap	2010 結成	マレーシア	芸文	18
パク・チャンキョン	PARK Chan-kyong	1965	韓国	芸文	18
バスカレハンドロ <small>(アレハンドロ・ホドロフスキー& バスカル・モンタンドン=ホドロフスキー)</small>	pascALEjandro <small>(Alejandro JODOROWSKY and Pascale MONTANDON-JODOROWSKY)</small>	—	(拠点:フランス)	名市美	19
タニア・ペレス・コルドヴァ	Tania PÉREZ CÓRDOVA	1979	メキシコ	名市美	19
スチュアート・リングホルト	Stuart RINGHOLT	1971	オーストラリア	芸文	19
ウーゴ・ロンディノーネ	Ugo RONDINONE	1964	スイス	芸文	20
澤田 華	SAWADA Hana	1990	日本	芸文	20
Sholim	Sholim	1985	セルビア	名市美	20
タリン・サイモン	Taryn SIMON	1975	米国	豊市美	21
スタジオ・ドリフト	Studio Drift	2007 設立	オランダ	豊市美	21
菅 俊一	SUGE Syunichi	1980	日本	芸文	21
高嶺 格	TAKAMINE Tadasu	1968	日本	豊市美・豊田市駅	22
○ 田中 功起	TANAKA Koki	1975	日本	芸文	22-41
ハビエル・テジェス	Javier TÉLLEZ	1969	ベネズエラ	芸文	22
バルテレミ・トグォ	Barthélémy TOGUO	1967	カメルーン	名市美	23
トモシ	tomotosi	1983	日本	豊田市駅	23
津田 道子	TSUDA Michiko	1980	日本	四/円	23
碓井 ゆい	USUI Yui	1980	日本	名市美	24
和田 唯奈(しんかぞく)	WADA Yuina (Shinkazoku)	1989	日本	豊田市駅	24
鷺尾 友公	WASHIO Tomoyuki	1977	日本	四/円	24
アンナ・ヴィット	Anna WITT	1981	ドイツ	芸文・豊田市駅	25
袁廣鳴(ユエン・グァンミン)	YUAN Goang-Ming	1965	台湾	芸文	25
弓指 寛治	YUMISASHI Kanji	1986	日本	四/円	25
カタリーナ・ズィディエーラー	Katarina ZDJELAR	1974	ユーゴスラビア(現セルビア)	名市美	26

アルファベット順/アーティスト名には、団体名、プロジェクト名を含む

★は2019年3月28日以降に追加発表したアーティスト。

○はパフォーマンスアーツの「エクステンション企画」へも参加。dividual inc.については、ドミニク・チェン単独で参加。

芸文=愛知芸術文化センター ミッド=ミッドランドスクエア シネマ

芸創=名古屋市芸術創造センター 豊市美=豊田市美術館

名市美=名古屋美術館 豊文=豊田市民文化会館

四/円=四間道・円頓寺 豊田市駅=豊田市駅周辺

2019年7月31日現在、参加アーティスト数は93組、30の国と地域から参加。

*グループ参加の場合は、結成/設立した地域を出身地としてカウントしています。

ラーニング

アーティスト名 (日本語)	アーティスト名 (英語)	生年	出身地	会場	別冊掲載ページ
遠藤 幹子 & 日比野 克彦	ENDO Mikiko and HIBINO Katsuhiko	1971/1958	日本	芸文	27

映像プログラム

アーティスト名 (日本語)	アーティスト名 (英語)	生年	出身地	会場	別冊掲載ページ
★ バスマ・アルシャリフ	Basma ALSHARIF	1983	クウェート	芸文	28
★ キャスリン・ビグロー	Kathryn BIGELOW	1951	米国	芸文	29
★ チェ・スンホ	CHOI Seung-Ho	1961	韓国	芸文	29
★ カンパニー松尾	Company Matsuo	1965	日本	芸文	30
★ クレール・ドウニ	Claire DENIS	1946	フランス	芸文	30
★ 広瀬 奈々子	HIROSE Nanako	1987	日本	芸文	31
★ アレハンドロ・ホドロフスキー	Alejandro JODOROWSKY	1929	チリ	芸文	31
小森 はるか	KOMORI Haruka	1989	日本	芸文	32
★ ミロ・ラウ	Milo RAU	1977	スイス	芸文	32
★ レニ・リーフェンシュタール	Leni RIEFENSTAHL	1902-2003	ドイツ	芸文	33
★ 戸田 ひかる	TODA Hikaru	1983	日本	芸文	33
★ 東海テレビ放送	Tokai Television Broadcasting	1958 開局	日本	芸文	34
富田 克也	TOMITA Katsuya	1972	日本	芸文・ミッド	34
★ 吉開 菜央	YOSHIGAI Nao	1987	日本	芸文・ミッド	35

パフォーマンスアート

アーティスト名 (日本語)	アーティスト名 (英語)	生年	出身地	会場	別冊掲載ページ
モニラ・アルカディリ	Monira AL QADIRI	1983	セネガル	芸文	36
市原 佐都子 (Q)	ICHIHARA Satoko (Q)	1988	日本	芸文	37
小泉 明郎	KOIZUMI Meiro	1976	日本	芸文	37
ネイチャー・シアター・オブ・オクラホマ +エンクナップグループ	Nature Theater of Oklahoma + EN-KNAP Group	—	米国/スロベニア	芸創	38
ミロ・ラウ(IIPM) + CAMPO	Milo RAU (IIPM) + CAMPO	—	スイス・ドイツ/ベルギー	芸文	38
サエボーグ	Saeborg	1981	日本	芸文	39
高山 明 (Port B)	TAKAYAMA Akira (Port B)	1969	日本	芸文	39
★ 劇団アルテミス+ヘット・ザウデライク・トネール	Theater Artemis + Het Zuidelijk Toneel	—	オランダ	芸創	40
劇団うりんこ+三浦 基+クワクボリョウタ	Theater Urinko + MIURA Motoi + KUWAKUBO Ryota	—	日本	芸文・豊文	40

音楽プログラム

アーティスト名 (日本語)	アーティスト名 (英語)	生年	出身地	会場	別冊掲載ページ
純烈	Junretsu	2007 結成	日本	芸文	42
サカナクション	Sakanaction	2005 結成	日本	芸文	42
★ ユザーン	U-zhaan	1977	日本	四/円	43

◎現代美術（国際現代美術展/映像プログラム） **NEW**

国際現代美術展チケットの種類と制度

1DAYパス	当日に限り、各会場を何回でもご覧いただけます。
フリーパス	会期中、各会場を何回でもご覧いただけます（オリジナル手ぬぐい付き）。 ※手ぬぐいは、会期中、各会場国際現代美術展チケット販売窓口でフリーパスを提示の上、お受け取りください。
アップグレード	会期中、差額分をお支払いいただくことで、「1DAYパス」から「フリーパス」へ変更できます。 ただしオリジナル手ぬぐいは付きません。 ※差額分は、一般：1,400円／大学生：1,100円／高校生：500円

チケット料金（販売期間）		1DAYパス	フリーパス	クリムト展セット券 （豊田会場限定）
会期中販売券 （8月1日～10月14日）	一般	1,600円	3,000円	大学生以上 2,000円
	大学生	1,200円	2,300円	
	高校生	600円	1,100円	—

- *中学生以下は無料です。 *高校生は、行事や部活動での観覧の場合、観覧日当日に限り無料です（要事前申込）。
- *障害者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名までは観覧無料となります。当日、会場のチケット売り場で手帳をご提示ください。
- *映像プログラム、パフォーマンスアート及び音楽プログラムについては、別途入場料が必要となる場合があります。
- *大学生・高校生区分のチケットをお持ちの方は、身分証明書をご提示いただく場合があります。
- *クリムト展セット券は豊田会場のみ観覧でき、アップグレードできません。

国際現代美術展会場チケット販売窓口 （チケット販売・実券引換・手ぬぐいお渡し）	その他の販売場所	
愛知芸術文化センター10階 名古屋市美術館1階 ふれあい館えんどうじ（四間道・円頓寺） 豊田市美術館1階及び2階（#） 名鉄豊田市駅下インフォメーション（#）	あいちトリエンナーレ公式Webサイト（#） チケットぴあ（Pコード：769-582）（#） ローソンチケット（Lコード：47100）（#） イープラス（#） セブンチケット（セブンコード：074-786）（#）	JTB 楽天チケット（#） 愛知芸術文化センター内プレイガイド など県内主要プレイガイド 主要コンビニエンスストア

*（#）はクリムト展セット券も販売しています。 *豊田市美術館では、1階でチケット販売、2階で実券引換と手ぬぐいお渡しを行います。

映像プログラム 愛知芸術文化センターにて上映する作品については、国際現代美術展チケットでご覧いただけます。ミッドランドスクエア シネマでの『特別オールナイト上映』については、別途入場料が必要となります。詳細は公式Webサイトをご覧ください。

◎舞台芸術（パフォーマンス/音楽プログラム） **NEW**

パフォーマンス

3演目セット券 8,700円（お好きな演目を3つ選んでお得に鑑賞できるセット券）

ペア割チケット 2名様で1枚につき10%OFF（同一演目をお二人一緒に観劇するとお得なチケット）

- *セット券・ペア割対象外演目：『パブリックスピーチ・プロジェクト』、『House of L』、『縛られたプロメテウス』、エクステンション企画5演目
- *セット券、ペア割はアイ・チケットにて取り扱います。

チケットの販売場所

- ・アイ・チケット ・愛知芸術文化センタープレイガイド ・チケットぴあ ・Peatix（英語対応）
- ・名古屋市芸術創造センター（該当演目：『幸福の追求』、『ものがたりのものがたり』）
- ・豊田市民文化会館（該当演目：『幸福はだれにくる』（豊田公演））

音楽プログラム 最新の販売場所/方法は公式Webサイトをご確認ください。

チケット問合せ先

国際現代美術展チケット

あいちトリエンナーレ入場券管理センター
TEL: 052-307-6650
（10:00～18:00／土日祝休み／会期中は無休）

舞台芸術チケット

パフォーマンスチケット
クラシック名古屋
TEL 052-678-5310
（10:00～17:00 日祝休み）

音楽プログラムチケット
あいちトリエンナーレ実行委員会事務局
TEL 052-071-6127
（10:00～17:00／土日祝日休み／会期中は無休）

*チケットの取り扱い先など最新情報及び詳細は公式Webサイトをご覧ください。 *舞台芸術のチケット料金は公演毎に異なります。

モバイル・トリエンナーレ

■「あいちトリエンナーレ2019」参加アーティストのうち20組が、主な会場で展示されるものとは異なる作品40点程度を、県内4ヶ所の文化施設などで巡回展示します(入場無料)。

日程	開催市町	会場
8月23日(金)～8月25日(日)	設楽町	設楽町田口特産物振興センター
8月30日(金)～9月1日(日)	津島市	津島市文化会館
9月6日(金)～9月8日(日)	小牧市	小牧市市民会館・公民館
9月20日(金)～9月23日(月・祝)	東海市	東海市芸術劇場、大屋根広場

舞台芸術公募プログラム

■企画公募により選考された15組の地元文化芸術団体などと共催で、舞台公演を行います。

愛知県芸術劇場コンサートホール [3公演]

公演日	主催者名(ジャンル)	公演名
9月23日(月・祝)	倉知 可英 (舞踊・音楽)	『Les femmes dans le tourbillon 渦の中の女たち - 今こそ、女性は太陽である。』
9月28日(土)	愛知ロシア音楽研究会 (音楽)	愛知ロシア音楽研究会創立10周年記念演奏会 『サルタン王の物語 - 熊ん蜂が飛ぶところ -』
9月29日(日)	名古屋芸術大学 (ミュージカル)	『ドラマチック・ミュージカル・コンサート - ジャパネスク・ワンダーランド - 「情」に彩られた古(い)こしえの風景への旅 - 振り返れば、そこには未来がある』

愛知県芸術劇場小ホール [8公演]

公演日	主催者名(ジャンル)	公演名
9月23日(月・祝)	ニフエアール (現代音楽)	ニフエアール第15回公演『メキシコ・日本:響きの情熱』
9月25日(水)	体現帝国 (演劇)	体現帝国第八回公演『しっぽをつかまれた欲望』(作:パブロ・ピカソ) 著作権代理:(株)フランス著作権事務所
10月1日(火)	MiA (現代音楽)	『MiAの縁日 - アーケード商店街で現代音楽を演奏したら - 』
10月2日(水)	Seainx project (現代音楽)	Seainx 2019 第3回名古屋国際現代音楽アカデミーコンサート『笛の音』
10月3日(木)	伏木 啓 (インターメディア・パフォーマンス)	『The Other Side』
10月4日(金)	NEOFLUXUS - Kio Griffith・ 臼井 廉浩・Marcos Fernandes ほか (現代音楽・実験音楽・パフォーマンス)	『NEOFLUXUS』
10月5日(土)	office Perky pat (朗読・ダンスほか)	perky pat presents『ROD - 今昔物語 - 』
10月6日(日)	ナゴコン (コンテンポラリーダンス)	『Love&Intestine 愛と腸』

名古屋市芸術創造センター [4公演]

公演日	主催者名(ジャンル)	公演名
9月26日(木)	中部芸能家協議会 (演劇・舞踊・狂言・音楽等)	中部芸能家協議会 芸能サロン『戯れごと』
9月27日(金)	名鶴ダンスカンパニー (舞踊[ジャズダンス])	名鶴ダンスカンパニー DANCE MESSAGE『Letter』
9月28日(土)	名古屋音楽大学 (オペラ)	めいおんオペラティックコンサート『シェイクスピア変奏曲 - 劇情の魅力 - 』
9月29日(日)	名古屋洋舞家協議会 (舞踊[洋舞])	名古屋洋舞家協議会 Dance freedom『回遊する五感』

芸術大学連携プロジェクト

■『U27 プロフェッショナル育成プログラム 夏のアカデミー2019「2052年宇宙の旅」』

映画監督スタンリー・キューブリックが1968年に発表した『2001年宇宙の旅』は、33年後という近未来を想像し描出したものでした。3つの地元芸術大学(愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学)の学生、卒業生及び一般公募により選考された参加者が、現在から33年先、2052年の未来の都市や生活空間を創造するパヴィリオンをつくります。多彩な講師陣による講義と共同制作を交えて生み出されるパヴィリオンは、9月21日(土)～10月14日(月・祝)まで「アートラボあいち」で展覧会として公開されます。

アートラボあいち | あいちトリエンナーレ及び現代アート等に関する情報発信拠点

名古屋市中区丸の内三丁目4-13 愛知県庁大津橋分室2～3階

開館:水曜日～日曜日・祝日、11:00～19:00 WebサイトURL: <http://aichitriennale.jp/ala/> TEL: 052-961-6633

芸術祭等連携事業

■「あいちトリエンナーレ2019」と同時期に開催される、他の芸術祭等と連携して、相互に広報展開を図ります。

連携する芸術祭等(開催地) **瀬戸内国際芸術祭 2019** (香川県、岡山県)
Reborn-Art Festival 2019 (宮城県)
中津川 THE SOLAR BUDOKAN 2019 (岐阜県)
森、道、市場 2019 (愛知県)

連携企画事業

■「あいちトリエンナーレ2019」と同時期に愛知県内で開催される、トリエンナーレのテーマや企画等と連携した内容で実施される事業を「連携企画事業」とし、相互に広報展開を図ります。

会期	展覧会/イベント名	会場
6月29日(土)～8月18日(日)	企画展 インダス文明への道 —栗田功コレクションを中心に—	愛知県陶磁美術館
7月18日(木)～10月13日(日)	ART・TRANSIT・OKAZAKI	masayoshi suzuki gallery
7月20日(土)～9月1日(日)	夏季特別企画 ネイチャー・ワンダーランド	愛知県児童総合センター
7月23日(火)～10月14日(月・祝)	クリムト展 ウィーンと日本 1900	豊田市美術館
7月27日(土)～10月14日(月・祝)	ART FARMing	名古屋市中区錦二丁目(長者町エリア) 綿覚ビル・長者町トランジットビルほか
8月1日(木)～10月14日(月・祝)	思いと人形の間	損保ジャパン日本興亜人形劇場 ひまわりホール 他1ヶ所
8月4日(日)～8月18日(日)	10周年記念 農村舞台アートプロジェクト2019 アートで蘇るとよたの農村舞台群	豊田市八柱神社(西中山町) 他6ヶ所
8月24日(土)～10月20日(日)	京都国立近代美術館所蔵 川勝コレクション 鐘溪窯 陶工・河井寛次郎展	愛知県陶磁美術館
9月7日(土)～9月16日(月・祝)	アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム メディア実験室	愛知県児童総合センター
9月7日(土)～10月14日(月・祝)	瀬戸現代美術展2019	旧産業技術総合研究所中部センター瀬戸サイト
9月7日(土)～11月10日(日)	アッセンブリッジ・ナゴヤ2019	名古屋市名古屋港～築地口エリア一帯
9月11日(水)～9月16日(月・祝)	あいちアール・ブリュット障害者アーツ展	名古屋市民ギャラリー矢田 他1ヶ所
10月1日(火)～10月14日(月・祝)	「情の深みと浅さ」展	ヤマザキマザック美術館
10月5日(土)、6日(日)、 12日(土)、13日(日)	廃校を舞台とした異種混合な文化祭 HYBRID BUNKASAI II	旧豊田東高等学校

パートナーシップ事業

■様々な文化芸術団体や民間企業、自治体などが行う文化芸術事業を「パートナーシップ事業」として募集し、相互に広報展開を行います。2018年8月1日から募集を開始し、2019年7月4日現在で211件を決定しています。

助成・協賛・協力・会場提供

助成



一般財団法人地域創造



NOMURA 野村財団

一般財団法人 東海テレビ国際基金



公益財団法人朝日新聞文化財団



協賛



Georgetown Impact Fund, LLC



公益社団法人愛知県医師会



VOLVO



AOI TYO Holdings



一般社団法人愛知県薬剤師会、一般社団法人愛知県土木研究会、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、一般社団法人愛知県浄化槽協会、愛知県信用保証協会、明治安田生命保険相互会社、株式会社オーテック、Wyrd、カフェ・カンパニー株式会社、株式会社GO、株式会社こやま淳子事務所、株式会社サンゲツ、株式会社善都、ダイコク電機株式会社、Tably株式会社、東邦ガス株式会社、株式会社ニュースピックス、認定NPO法人フローレンス、株式会社LIFULL、ラクサス・テクノロジーズ株式会社、株式会社Le Furo、トヨタ自動車株式会社

認証



協力



キャノンマーケティングジャパン株式会社

東海旅客鉄道株式会社、草叢BOOKS、名古屋みなと葛屋書店、株式会社トヨタレタリース名古屋、株式会社スペース、名古屋工業大学 佐野研究室、株式会社不動産工房、ホリゾン・インターナショナル株式会社

会場提供

アサヒ写真株式会社、飯田洋服店、伊藤家住宅 伊藤喜彦、円頓寺商店街振興組合、円頓寺本町商店街振興組合、合同会社カタチヲ、喫茶、食堂、民宿。なごのや、喫茶まつば、木村俊雄、化粧品フジタ、幸円株式会社、真宗高田派専修寺名古屋別院、花の木歯科、長久山 円頓寺、豊田まちづくり株式会社、はぎものの野田仙/月ののうさ、株式会社浜乙女丸ーストアー円頓寺店、名鉄産業株式会社

実行委員会

委員：大村秀章(愛知県知事)/河村たかし(名古屋市長)/山本亜土(名古屋商工会議所会頭)/豊田鐵郎((一社)中部経済連合会会長)/小川秀樹(名古屋商工会議所専務理事)/小川正樹((一社)中部経済連合会専務理事)/大島宇一郎(中日新聞社代表取締役社長)/島田敏男(日本放送協会名古屋放送局局長)/柄博子((独行)国際交流基金理事)/愛知県立芸術大学学長/神田真秋(愛知芸術文化センター総長)/齋木博行(愛知県民文化局長)/松雄俊憲(名古屋市観光文化交流局長)/菅沼綾子((公財)愛知県文化振興事業団理事長)/杉山勝((公財)名古屋市文化振興事業団理事長)/建島哲(多摩美術大学学長、2010芸術監督)/五十嵐太郎(東北大学大学院教授、2013芸術監督)/港千尋(多摩美術大学教授、2016芸術監督)/加須屋明子(京都市立芸術大学教授)/中井康之(国立国際美術館副館長)/水野みか子(名古屋市立大学教授)/藤川哲(山口大学教授)/川北眞紀子(南山大学教授)/紫牟田伸子(紫牟田伸子事務所)

顧問：神野博史(愛知県議会議長)/丹羽ひろし(名古屋市長)/禰宜田政信(愛知県市長会会長)/鈴木雅博(愛知県町村会会長)

参与：安井伸治(愛知県議会議民環境委員会委員長)/鈴木孝之(名古屋市長経済水道委員会委員長)/丸山公夫(中京テレビ放送代表取締役社長)/林尚樹(CBCテレビ代表取締役社長)/宮本明彦(テレビ愛知代表取締役社長)/小島浩資(東海テレビ放送代表取締役社長)/狩野隆也(名古屋テレビ放送代表取締役社長)/竹内圭介(朝日新聞社名古屋本社代表)/新井裕(日本経済新聞社常務執行役員名古屋支社代表)/若菜英晴(毎日新聞社常務執行役員中部代表)/依田裕彦(読売新聞東京本社執行役員中部支社社長)/佐藤恵子(名古屋音楽大学学長)/竹本義明(名古屋芸術大学学長)/山本理顕(名古屋造形大学学長)/中谷真人(愛知県小中学校長会会長)/荻原哲哉(愛知県公立高等学校長会会長)/坂野幸彦(名古屋市立小中学校長会会長)/石田正城(愛知県私学協会会長)/藤井知昭(愛知芸術文化協会顧問)/南雄介(愛知県美術館館長)/丹羽康雄(愛知県芸術劇場館長)/早瀬弘親(名古屋市美術館館長)

アドバイザー：伊東正伸((独行)国際交流基金文化事業部部長兼審議役)

監事：柘植里恵/大野明彦

幹事：八神秀之(愛知県民文化局文化部長)/月東靖詞(名古屋市観光文化交流局文化歴史まちづくり部長)/馬場宏之(名古屋商工会議所総務管理部長)/岩附一人((一社)中部経済連合会企画部長)/加藤清史(愛知芸術文化センター管理部長)/大林由孝((公財)愛知県文化振興事業団常務理事)

問合せ先

あいちトリエンナーレ実行委員会事務局 広報担当(田中、水越、有田)

〒461-8525 愛知県名古屋市東区東桜1-13-2 愛知芸術文化センター内

Aichi Triennale Office (Public Relations Department)

1-13-2 Higashi-sakura, Higashi-ku, Nagoya, Aichi 461-8525, Japan

Tel: 052-971-6111 Fax: 052-971-6115

E-mail: press@aichitriennale.jp (広報専用)

<http://aichitriennale.jp/>

